

国語では、解答の書き方・表現を一つに限定しがたい設問について、採点基準に近い形の出題意図を示す。

1

問（一）（解答例）

ヒトが所有したり、贈答したり、転売したりするなかで、モノが帯びる、関わってきたヒトにまつわるアイデンティティのこと。

問（二）（解答例）

モノには元の持ち主や贈り主の人格の一部が宿っており、切り離すことはできないと考えられるため。

問（三）（解答例）

身体と同一視され、モノを媒介として財を譲り受けた他者に働きかけることがなく、所有物に対して排他的な権利を有するという私的所有論の考えに基づいた自己。

問（四）（解答例）

多くの貨幣や富、権力などを私的に所有して、競争に勝利し、それによって他者から認められたいという資本主義経済の考え方を持つ一方で、何も持たず争わずとも他者から認められたいという資本主義経済とは相反する考え方も持つという矛盾。

問（五）（解答例）

私的所有の境界のみによって自己のあり方を捉えるのではなく、従来の自他の区別そのものを柔軟に捉えなおそうとする視点を併せ持つことは、終わりの見えない資本主義経済において、人々の閉塞的な生きづらさを別の方向に解放する契機ともなりえるから。

問（六）（意図・基準）

本問は課題作文に当たる。文章・構成面では、字数が8割以上あり、最後まで書き終えていること、誤字・脱字がなく、全体の構成がきちんと構築されていることを求めている。内容面では、本文の内容を踏まえていること、指示されていることにふさわしい内容であること、論理が一貫し、結論まできちんと書かれていることを求めている。

問（七）

(a) 困窮 (b) 奴隷 (c) 端緒 (d) ちゅうたい (e) 忌避

2

問（一）（解答例）

もし、自分の価値が分かって待遇してくれる人がいない状況だというなら、浮かばれないまま、寂れた場所で世に知られずに死ぬこともやむを得ないということ。

問（二）（解答例）

懸念申し上げずにはいられないことがございますのを、申し上げずにおくことはできそうにないけれども、口に出すのもやはりどうかと思われて

問（三）（解答例）

誰も、うわべのふるまいでは逆らい申し上げなくても、内心では、だからといってどうして十分に服従申し上げるでしょうか（いや、しないでしょう）。

問（四）（解答例）

酒にだけ執心しているせいで、筑紫の帥として統率すべき役人たちから反感を買って罷免される羽目に陥り、父が再起・立身の宿願を遂げられなくなるのが目に見えており、今、就任前に辞退すればもとよりその心配が無いから。

問（五）

- (a) 打消意志の助動詞「じ」の終止形
- (b) 推定（推量・婉曲）の助動詞「めり」の連体形
- (c) 断定の助動詞「なり」の連用形

解答例…

(一) 「方」…あた (2) 「俱」…とも (3) 「已」…のみ

(二) 天下は平安無事なときは、なんでもないが、事件がおこったときは、洛陽が必ず先に最初に戦禍に見舞われる。

(三) てんかのちこつをわするるときは、しりぞきてこれをうけんとほつするともえんや。

(四) キーポイント…①庭園の興廃は洛陽の盛衰の兆し、洛陽の盛衰は天下の治乱の兆し

②公卿・大夫へのいましめ